

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

---

## 目次

1. 英語学習を始める前に .....	3
(1) 英語を一からやり直したい人へ！ .....	3
(2) 中学の基礎固めを行うべき人の判断基準 .....	4
(3) 中学レベルの基礎を固める方法 .....	4
(4) 基礎学力の作り方 .....	5
(5) 英語をトップレベルに引き上げるための考え方 .....	6
2. 英単語・英熟語について .....	7
(1) 英単語、英熟語について .....	7
(2) 英単語の覚え方 .....	8
(3) 英単語の暗記を少しでも効率よくするために .....	9
3. 英文法 .....	11
(1) 英文法問題にチャレンジ .....	11
(2) 英文法問題にチャレンジ（解答） .....	11
(2) 英語力診断テスト（解説その2） .....	12
4. 英文読解 .....	15
(1) 英文読解のコツ .....	15
(2) 英文和訳をうまく切り抜けるために .....	16
(3) 英文の解説について .....	17
(4) 英文和訳や英作文を完全にこなすことを考えてはいけない .....	17
5. 英語長文 .....	18
(1) 英文を読み込む前に .....	18
(2) 英語の長文を読み込む前に .....	19
(3) 英文を読む練習をするときの注意点 .....	20
(4) 英語の音読について .....	21
(5) 英語長文の空所補充について .....	21
(6) 英文速読のためのコツ（その1） .....	23
(7) 英文速読のためのコツ（その2） .....	23
(8) 英文速読のためのコツ（その3） .....	23

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

---

(9) 英文速読のためのコツ (その4) .....	24
(10) 英語のパラグラフリーディングについて .....	24
(11) 英語長文読解 (緩急→焦点合わせ) .....	25
(12) 英語長文をすばやく読むためのキーワード .....	25
(13) 英語長文学習の到達地点 .....	25
6. 和文英訳・自由英作文 .....	26
(1) 英作文を書くときは .....	26
(2) 英作文の問題集、参考書をやる前に .....	27
(3) 自由英作の視点 (その1) .....	28
(4) 自由英作の視点 (その2) .....	29
(5) 国公立二次英作について .....	30
7. 英語の勉強方法 (日々の学習方法) .....	31
(1) 偏差値70台に乗せるための英語勉強法 .....	31
(2) 英語全般の勉強方法 .....	32
(3) 英語の勉強は継続的に! .....	34
(4) 英語の勉強のコツは極端→バランス .....	34
(5) 英語力診断テスト .....	36
(6) 英語に関するテクニックについて .....	39
(7) 直前期の英語学習について .....	40
8. 個別対策 .....	41
(1) 英語の過去問について .....	41
(2) マーク模試英語について .....	42
(3) 英語のマーク模試の復習の仕方 .....	43
(4) リスニング上達のコツ .....	45
(5) 早慶のための英語練習 (その1) .....	48
(6) 早慶のための英語練習 (その2) .....	49
(7) 国公立英語の二次対策 (その1) .....	50
(8) 国公立英語の二次対策 (その2) .....	53
(9) 国公立英語の二次対策 (その3) .....	54
(10) 国公立英語の二次対策 (その4) .....	55

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

---

## 1. 英語学習を始める前に

### (1) 英語を一からやり直したい人へ！

意識してほしいのは、

英単語、英熟語、英文法、構造把握、長文読解という全てのジャンルを「同時進行」させながら、一気にダッシュをかけて勉強を詰め込んでいく！！

ということです。

英語はパーツの組み合わせで成り立つ言葉です。

そして、そのパーツには、暗記と理解の側面があります。

やることが様々なわけなのです。

文法をやるにも単語が必要

読解をやるには単語、熟語、文法が必要

つまり、1 ジャンルの勉強をやるときできえ、他ジャンルが絡まってきてそれぞれでリンクしあっているのです！！

唯一、他のジャンルが絡んできにくいのが、単語の暗記勉強です。

しかし、単語暗記をやらないと英語の勉強は始まらないのですが、単語の暗記ばかりをやっても点数にはなかなかなりません！！

(全く知らなかったときよりは目覚ましく進歩したようには自覚できますが)

苦しいけど、最初は忙しい勉強を続けて下さい！

長文を最初の段階でやるのは、って思うかもしれませんが、下手なりに分からないなりに長文は読み続けて欲しいのです。

いろんなパーツが整っていくにしたがって、長文を読むのが楽になってけることを実感していきます！

それが大切なことなのです！

一見、単語熟語文法構造把握が整ってきてから長文を読むほうが楽に読めるようになると思われがちですが、頭のなかでは、長文読解は他のことと別物に見えてしまい、何かしら足りないという疑心暗鬼に駆られて、また長文を読むことを辞めてパーツ練習に戻ってしまうものなのです(こういう受験生がなんと多いことかっ！！！)。

同時にやっていくことで、必ずどこかで全てがリンクし出すのです。

英語の頭ができてくるわけです。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

そうなる、勉強が加速していき、更なる飛躍への階段を登るチャンスが生まれてきます！

パーツごとに組み立てていくような勉強ばかりだと、結局うまくいかず、諦めが入ってくるものなのです。

はじめは辛いかもしれないけど、パーツ暗記、練習と長文読解は並行しながら頑張ってくださいね！！

ある程度成長した時点でそのことの完成を目指す勉強から(そういう意識は大切ですが、それらだけに固執していると、他の教科とのバランスが悪くなってしまい全体的な効率下がってしまいます)そういうことを「ぼちぼちやりながら」

どんどん過去問演習へと切り替えて入試実践練習を積んでいくべきなのです。

→ここで得点力を磨きつつ、パーツの大切さを認識してもらい、パーツ練習フォローも常々行っていくのです！！

このような同時進行をイメージしながら、勉強の最初の段階から「英語のすべての勉強を統合させていく」という意識で頑張ってもらえたらなあと思います。

初期段階では、とにかく英語の勉強には時間がかかります。

時間をかけないと、様々な勉強をクロスオーバーさせることはできませんので、時間をとにかく作って最初の1ヶ月で英語全体に対する「慣れ」を構築してくださいね！

### (2) 中学の基礎固めを行うべき人の判断基準

英語を学習するときは、よほど基礎に自信がない限り、中学の内容から復習してください。

中学の内容を復習しなくて大丈夫なラインの目安は、

公立高校の入試問題をテストして、リスニングを除いて満点 or 1ミス

英検3級の筆記問題のリスニングを除いて満点 or 1ミス

が基準です。

これくらいが当たり前レベルで解けないと、基礎力は本当に不安です。

まずはこのレベルの試験で、満点が取れる基礎作りをいそぎましょう。

### (3) 中学レベルの基礎を固める方法

用意するもの

中学レベルの単語・熟語集（「システム英単語中学版」がオススメ）

単元別になった文法問題集（解説がしっかりしたもの）

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

フォレスト（桐原書店）

やり方&卒業目安

①単語・熟語集の中の**単語を選別**します

即座にイミが言えなかったもの⇒△

イミがわからなかったもの⇒×

をつけていく

②**△×だけを100個ずつ**覚えていきテストしていき

△を○に

×を△にしていく

③**すべてを瞬間的に言えるようになったら**卒業です

④次に、単元別に文法問題を攻略していきます

（分からないことはフォレストを参照）

⑤**10周**は最低行って、その問題を**解説できるレベル**にする

⑥**全ての英文を英作できるようにする**

英語の基礎ができていない人は、今まで繰り返しを行ってきていない姿勢に問題があります。

内容を完璧にするには繰り返しが必要だということを身体で覚えましょう。

英作をしてみないと学力の穴は見つかりません。

なぜそんな語順になるのか？を意識して考えてみるべきです。

うまく英作できなかったときは、文法のポイントを押さえた上で、丸暗記していきましょう。

英文が書ける自信が後々の学力を左右していきますので、この英作を作る過程をさぼらないようにしていきましょう。

### （４）基礎学力の作り方

学力がかなりヤバイ状態の場合、間違いなく語彙が足りないことに起因しています(もちろん文法など様々なものもそうなのですが…)

中学レベルの英単語(800 単語ぐらい)

大学入試センターレベルの英単語(1200 単語ぐらい)

中学～大学入試センターレベルの英熟語(500 ぐらい)

の意味(英熟語の場合は日本語から形が出せるようにもする)

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

がさっさと言えるようになるだけで、英語の学習負担がかなり減り、それなりに学力が上がります。

もちろん、文法をやったり読解をしっかりやっていかないと点数が目に見えて大幅にUPしたりはしません。

でも、(意味をひとつ瞬間的に出せるようになった)英単語がアタマに装備された状況になれば、必ず英語に対する反応が良くなりますし、なにより大きな自信を作ることができます。

はじめは片寄った勉強になりますが、急いで(1ヵ月以内に)英単語、英熟語だけでかまわないからバリバリ覚えまくって下さい。

ちまちまやっていたら、いつまでたっても終わりませんので一日 200 個くらいを頑張っていきましょう。

ラクではないのは分かっていますが、結局あとで乗り越えなくてはいけない大きなカベなのです。

今からなら、ゴールデンウィークまでには完成できます。

その間、色々勉強してもかまいませんが、結局英単語半分くらいしか覚えてねえやみたいな中途半端な状況は避けて下さいね。

バランスよく勉強できる姿勢なら、そんな成績になってないはずですよ。

だから短期一点集中でココをクリアして入試への足掛かりと自分への自信を作して下さい。

### (5) 英語をトップレベルに引き上げるための考え方

英単語、英熟語を暗記することは大切です。

英語のシンプルな一貫性に気がつかなければ、それらの知識はうまく生かせません。

「知っている」「知らない」の知識オンリーな攻め方を考えるのではなく、知識+考え方という戦略で考えていかないと、難関大学の英語には手も足も出なくなります。ある程度英語が分かってくると何でもないようなことも、英語が分かってない人には考えもしないようなこと、ある程度英語が分かってきたのに伸び悩みが出てくる原因となることこれらに共通するのは、間違ったフィーリングと使いこなせない複雑な考え方です。

きちんと判断して、きちんと考えるには、シンプルで当たり前だけど大切な考え方(応用しやすい考え方)を身に付けなくてははいけません。

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

## 2. 英単語・英熟語について

### (1) 英単語、英熟語について

英熟語覚えましょうね⇒得点力に直結します！

基礎英単語は意味が言えるだけではダメですよ⇒用法が大切なのです

英単語の多義語も得点に直結します！

単語の学習は、知らない単語だけに目がいきそうですが、基礎単語、英熟語とのバランスをはかりながら学習しないと得点がでませんよ！

入試や模試の長文読解、和訳、の問題をよく見てみると、実は、知識系の問題がたくさんまぎれています。

こういう問題をさっさと片付けて、がっつり読まないで解けない設問にいかにも時間を割り振り、正答していけるかで点数や合否は決まりますからね！

英熟語の本はどれも大差ないので、見て覚えやすそうなのを探してみてください。

基礎英単語と多義語が手厚い英単語集は、システム英単語 BASIC だと思います。

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

## (2) 英単語の覚え方



① とりあえず覚えたものを、鉛筆で線引きして消す

② テストを繰り返す

③ 残った英単語を赤で囲む ← 目立つように！

④ 赤で囲ったものだけ覚えてテストする

⑤ 覚えたものは、黒のサインペンで消す

⑥ 赤の枠の単語だけを覚えてテストをする

知らないもの、覚えにくいものだけにフォーカスをしていき、消すことで、あと少し、

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

あと少しの感じを作りつつ、知らない、怪しいものだけテスト出来るようにしていくことで、必要な反復と、テストによって覚えた！という達成感が得られます。

以後は、怪しいものだけカードにするのも良し！！

または、英単語の本に印を大きくつけて、意識づけとともに反復させるための印をあてにして反復しまくる。

というように、さらに英単語を深めるキッカケも出来るかと思いますよ！！

### (3) 英単語の暗記を少しでも効率よくするために

ある程度、単語集などを使って英単語を暗記していくと、

○ 覚えている単語（即座に意味が出てくる単語）

△ うろ覚えな単語

（即座に意味がでてこない単語、他の訳語が先に再生されて後から意味が出てくる単語）

× 覚えられない単語

の3つのパターンの単語に分類されていくと思います。

その後、単語集をひたすら回しながら、この3つの印などで分類した単語を多少は意識しながらも、すべて読んだりチェックしていくことが多いのではないかな？

それでは、得意な単語も不得意な単語も、同じだけ触れることになり、じつは、不得意な単語は不得意なままになっていたりしませんか？

不得意単語には、なんらかのカンフル剤を打ち、覚えやすく、触れやすくする必要があります。

だからといって、カード化したりすると金銭的にも、きつくなり、長続きしない流れになることもあるかと思います。

また、作る行為が面倒になったから辞めてしまうことも理由のひとつですね。

そこで、金銭的にもほとんどかからず、少しは覚えやすい方法を紹介したいと思います。

まず、いらぬ紙、少し太めのサインペン、○△×のしるし分けをした単語集をご用意ください。

次に、×だけのグループの単語だけをボールペンなどで紙に書き並べていきます。

このとき、5個セットで意味を横に添えながら単語を縦に並べてリスト化します。

こんな感じです。

i n t r o d u c e                      ～を紹介する

a c q u i r e                              ～を習得する

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

d e m a n d	～を要求する
d o m e s t i c	国内の、家庭の
p r o v e r b	ことわざ
s u s t a i n	～を支える
e f f e c t i v e	効率的な
p o p u l a t i o n	人口
e n t e r t a i n	～を楽しませる
t r i b e	部族

そして、5個セットの最初のグループを1分間で何回も高速で読んだり見たりして、とりあえず覚えましょう。

そのあと、軽くテストをして、出来不出来をチェックして次の5個も同じようにしていきます！！

6セットくらいを消化したら、今までのを全て確認テストをしてアタマへの記憶が悪い単語だけを少し太いマジックで枠囲みして目立つようにさせたら、またその単語だけを5個セットで、先ほどの要領で覚えていきます。

ワースト オブ ワーストを選抜して覚えていく感じです。

もちろん覚えにくい単語ですので、完全に覚えるまでには時間がかかりますが、そこだけに集中して、1回の覚える数も減らしていますので、覚えやすさは変わるとおもいますよ！！

△レベルの単語は、反射能力を養っていけば○レベルになるわけですから、1セットを10個くらいで設定して1分間でアタックしていくとイイでしょう！！

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

## 3. 英文法

### (1) 英文法問題にチャレンジ

① S h e is intelligent, but she just doesn't  
have ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) a good journalist.

be / takes / to / what

さらに一語補足して ( ) に埋めてね

② I n the early years of the 21 s t century  
the trend toward the unisex look

had reached so advanced from a state

that it was almost impossible

to distinguish males and females

unless they were completely unclothed.

文法上取り除かなければならない 1 単語はどれかな？

③ T h e old lady is said to burst into tears  
when her daughter read her the letter

from the wife of her dead son.

1 単語補えば正常な英文となります

どこに何の単語を補えばいいでしょうか？

### (2) 英文法問題にチャレンジ (解答)

① S h e is intelligent, but she just doesn't  
have ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) a good journalist.

be / takes / to / what

さらに一語補足して ( ) に埋めてね

⇒ **w h a t i t t a k e s t o b e**

I t t a k e s ~ t o V

V するのに ~ が必要となる

② I n the early years of the 21 s t century

the trend toward the unisex look had reached so advanced from a state

that it was almost impossible to distinguish males and females unless they were

completely unclothed.

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

文法上取り除かなければならない 1 単語はどれかな？

⇒ I n the early years of the 21 s t century

the trend toward the unisex look

had reached **so advanced a state**

that it was almost impossible

to distinguish males and females

unless they were completely unclothed.

s o 形容詞 a 名詞 (名詞のかたまりですよ)

r e a c h は他動詞なので目的語の名詞が必要

③ T h e old lady is said to burst into tears

when her daughter read her the letter

from the wife of her dead son.

1 単語補えば正常な英文となります

どこに何の単語を補えばいいでしょうか？

⇒ T h e old lady is said to **have** burst into tears

when her daughter read her the letter

from the wife of her dead son.

read が過去形なので

b e s a i d t o h a v e 過去分詞

にしなくてはいけない！

( t o h a v e 過去分詞

は動詞の時制より 1 つ前の時間帯)

さすが東大の問題ですね。

でも、基礎学力が充実していれば、解けることも実感していただければ…と思います。

### (2) 英語力診断テスト (解説その2)

③の英文について解説しますね

③ In the examples (which) I think of

**the person continued to behave**

S

V

in what ordinary people would agree is a normal manner.

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

という3つのブロックに見えたでしょうか？

どうしても I think のあたりが、SVに見えるとは思いますが、what の固まりが終わったと思えるところで is が登場してくるのも納得しにくいところですね。

ひとつひとつ順を追って説明していきたいと思います。

In the examples … その例の中で

I think of the person …私はその人のことについて考える

ととらえていくと、continued が余り

強引に

I think of the person continued to behave…

s v

と読み進めてしまうかもしれません。でもこれは大きな間違いです！！

前置詞の後ろには、文ではなく、名詞、動名詞、名詞の働きをする節

のどれかがこなくてはいけないのです！！

ということで、構造のとらえ方が誤っていることが分かりました。

そうすると、I think あたりのところを、文全体のSVととらえるのはマズイということになり、発想を変えなくてはいけなくなったわけですね。

そこで、名詞+SVという流れに注目して、

名詞+which(whom/that)+SV

関係代名詞目的格 目的語が抜けた不完全な文

捉え直して考えるべきだったのです。

{In the examples (which I think of)}

として、「私が考えている例の中で」という感じで意味をとらえて読み進めていくと、

the person continued to behave …その人は振舞い続けた

S V

となり、形的な矛盾がなくなりました。

次に、

in what ordinary people would agree is a normal manner

の部分を見ていきましょう。

何の in なのか分かりにくいので、とりあえず「～の中で、～において」

で意味をとらえておきます。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

そして次に、

in what ordinary people would agree is a normal manner

S

V

C

とらえた人はいなかったでしょうか??

前置詞の後ろに、ただの文がきてはいけないというルールのもとでは、この取り方は、間違いとなりますね。

そこで、かたまり的には、

in what ordinary people would agree is a normal manner

前置詞 in の目的語、すなわち、前置詞の後ろに、what(関係代名詞) の節がきていると、とらえたいところです。

そうすると、what の節の中身が変な感じがすると思います。

would agree と is という二つの動詞が存在することとなっているからですね。

ここで、こんな英文があるのをご存知でしょうか??

This is a man who I think can help you.

(こちらはあなたを助けることができると思う人です)

Do what you believe is right, .

(あなたが正しいと信じていることをしなさい)

I think / you believe を取り除いた英文

This is a man who can help you. (こちらはあなたを助けることができる人です)

Do what is right. (正しいことをしなさい)

でも、普通に構造上は大丈夫ですよ

こういう場合の、I think / you believe のことを関係代名詞の直後の挿入、または、節をまとめて連鎖関係代名詞節と呼んだりします。

これらの I think / you believe は ( ) の中に入れてしまい、構造上は無視しておくのがよいのです。よって、長くなりましたが、

in what (ordinary people would agree) is a normal manner

となって、what is a normal manner(普通の方法であるもの) がベースとなっていることがわかりますね。

what is a normal manner

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

なので、**what = manner** (be 動詞は=のしるし) が成立して、what は、「方法」と訳すことができます。

本来、what (もの、こと) というのは、不確定要素が強い言い方なので、周りに合わせて訳語を変化させることができます。

そこで、少し訳出を工夫して、「**普通である方法**」と訳せるわけです。

(ちなみに、manner は前置詞 in と絡まると「**in ~ manner**」で、「**～な方法で**」と訳される多義語です)

まとめてみると…

in **what** (**ordinary people would agree**) is a normal manner

「普通だと一般の人が認めるだろう方法で」

となりますので、英文全体では

In the examples (which) I think of

the person continued to behave

in what ordinary people would agree is a normal manner.

「私が考えている例の中で、その人は、普通だと一般の人たちが認めるだろう方法で行動し続けた」

ちょっとわかりづらい表現だったと思いますが、構文的な理解はしていただけましたでしょうか??

前後関係がないため、分かりづらい感じだったと思いますが、一応、東大の入試問題でした。

くれぐれも、構造を把握せずに、ただ単語の意味をつないで自分勝手な解釈に走る、というようなことはやめてくださいね!!!!

### 4. 英文読解

#### (1) 英文読解のコツ

英文をより速く正確にとらえるためのキーワードを並べてみたいと思います。

① 至る所にある主述関係をとらえよ!

② 名詞→動詞、形容詞化せよ!

③ →(矢印)でベクトルをつかめ!

④ 枠を決めてから中身をとらえよ!

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

### ⑤お尻を重視せよ！

暗号→明確な意味のツールです！！

(2) 英文和訳をうまく切り抜けるために

英文和訳をする際に気をつけるポイントは、

①英文の骨格と修飾部分を自分の中で区別つけておく

→骨格部分をしっかり訳してから修飾部分を+αさせていく

②修飾部分がどこにかかるのかをハッキリ表現する

→ここは誤魔化さないようにしっかり決めてくださいね！

③前置詞の方向性を大切に訳語に生かす

→主な前置詞の働きをおさえておきましょう！！

④ほとんどの抽象名詞は、動詞化、形容詞化させて訳語を組み立てる

→名詞で訳語を組み立てると意味が??になってしまいます！！

⑤分詞構文まわりが不安定だと構造を取るのが不安定になるので、不安がある人は早急に固めること！

⑥it と that の識別は採点官もかなり厳しく見ているので、ここらで整理しておきましょう！！

⑦動詞が導く前置詞などもチェックしておかないと、つながりが捉えられなくなりますので注意ですよ！

⑧分からない単語は前後で絞って、ズレない訳語を用意できるように、普段から練習しとく必要があります

→辞書や単語集に頼りすぎないように！

⑨訳文を書き上げたら、何度か読み直して、日本語としての微調整を施してくださいね！！

⑩熟語や構文をよくチェックしておいて、とんでもない誤解にならないように準備しておいてくださいね！

そして大切なのは、過去問などをやる時、すぐに解答を見るのではなく、どこまであがけるものなのか？

ということに頭を使ってください！！！！

調べたりするのはそのあとにやるべきことです。

自分の頭でしっかり考えておかないと本番力は育ちませんので！！

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

パターンがないからこそどれだけ考えてきたのか？

ということも問われていますので！！

### (3) 英文の解説について

完璧な全訳→完全には作れません！

完璧な設問へのアプローチ？→完全に読めたら説明必要ありません

というものを掲載した参考書、問題集は巷にたくさん売られているんやけど、学力低いやつが短期間で難関大学合格への手がかりが作れるようには何も書いてないよ。

問題集をバッチリこなして、過去問をウルトラやりまくって、それで何もつかんでない受験生が山ほどあって、最後には、早稲田の英語は難しいよな、なんて言っているわけ。

早稲田、正直、簡単なこと聞いていますけど？？

って言いたくなるわけ、分って欲しいなあ。

大学入試の本質なんか難しいことになんかあるわけないし、難しいと思っている人がおったら視点を変えて欲しい！

### (4) 英文和訳や英作文を完全にこなすことを考えてはいけない

英文和訳や英作文は配点がある程度高いだけに、かなり力を入れて対策をされている方が多いと思います。

無対策はもちろんいけないのですが、まずいのは、成果となりにくいのに、必要以上に時間をかけてしまって、逆に、文法対策や速読大意把握練習が疎かになってしまう人がかなりの数おられるのです。

実は、これらの分野は、いっばしの解答が作れるようになるには、毎日毎日英語と接して、そして日本語能力も最大限伸ばしていき、さらに、人前に立って指導する機会があって、それでも火の打ち所のない完全な解答を制限時間内に書けるようになるには、まあ、5～6年かかります。

私事ですが、受験時代、偏差値を80台～90台くらいにして普通レベルの大学入試の英語なら完全に解けるくらいにはしましたが、やはりその当時、京都大学の和訳や英作の難しさには唾然とした記憶があります。

実際のところ、あれらのニュアンスを正確に再現した解答を書く受験生は誰一人いないと思います。まあ、よくて6割伝わればイイほうですね。

ちなみに、入試会場で完全に書けた、という答案も厳しく採点されたら、実際、ほとん

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

ど点数がとれていない答案レベルなんですよ。

なんとか部分点を与えられて、点数をいただいているだけみたいです。

これは友人の有名国立大学の採点官が電話口でこぼしていました。

赤本の見事な解答も、その教科の専門家（予備校、大学、高校の先生方）が何日も練り上げて（調べつくします）発表するものです。

経験の浅い受験生が、制限時間をかけられ、緊張を強いられ、プレッシャーを感じながらやるテストでほぼ即興のノリで作る解答がうまく書けているわけではない、ということをしっかり自覚した上で対策をするなら、考えて行動してほしいものです。

### 5. 英語長文

#### （1）英文を読み込む前に

全訳や語句注はそばに置きながら、英文が分からなければすぐにそれらを参考にしながらも、読み進めてみてください。はじめから無理をして、自力で読むのは色んな危険があります。

一番怖いのは、適当な日本語で意味を推測でつないでしまうということです。

全訳などではつなぎ言葉である接続詞や助詞に気をつける必要があります。

前置詞に対して、おおよその日本語をおさえておかないと、読み進めていく上で常に障害になります。

あとは、日本語においてこのかたまりがどこを修飾しているのか？に細心の注意を払ってください。

速読をするとここをいい加減に処理してしまい、肝心な意味がボケてしまいますので、くれぐれも、名詞っぽく全てをぶつ切りに意味を捉えてしまうことのないようにしてくださいね！

「私、行く、学校、専門、学べる、ため、役に立つ、将来の就職」

こういうぶつ切り日本語をしながら意味を適当に推測してつないでいる人がごマンとおられるわけです。これではセンターあたりの内容が予測できる英文でも点数が 140 前後までで止まりますよ！！！！

ほとんど、カンを使っているわけですからね…読解力は伸びませんよ。

正答率も上がりませんしね。

フレーズに切ってつなぎ方を予測しながらも、助詞などに気をつけてかたまりをつない

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

てくださいね。

### (2) 英語の長文を読み込む前に

1行～2行の短文を頭から読み込むクセをつけてみてください。

その際、途中途中で区切りながらツッコミを入れていくのがコツです。

ダラダラ流し読みみたいなことをしていると、意味が頭の中に定着しませんよ！！

能動的に意味をとらえていくのがコツです。

構造に関してS V O Cの骨格パーツの考え方と修飾にはどんな種類の固まりがあるのか？を知ってからにしてくださいね！

例えば、こんな英文があったとして、

He was aware of the girl complaining that the room was too hot because the air conditioner was out of order.

区切り(スラッシュ?)を入れながら、頭から下していきつつ、ツッコミを入れて接続していくのです。

彼は気づいていた→何に気づいた？

その女の子に→どんな女の子？

不満を言っている(ことに)→その女の子が不満言ってるんやな

→何に不満なん??

部屋が暑すぎる→不満やな、確かに！

エアコンが故障していたので→エアコンが故障して部屋が暑すぎたんやな、よーある話やん

最後に

その女の子がエアコンの故障で暑すぎる部屋に不満なのに、彼は気がついたってわけねと、頭の中でまとめておくといいですね。

切る位置とかさほど気にしすぎなくていいですよ。

意味のまとまりが取りやすいくらいのところで切って、かたまりの意味を捉えつつ、

ツッコミを入れて次のかたまりと連携させていき、最後にもう一度頭の中を整理する

って感じで読んでいくと内容も忘れにくくなり、だんだんに長文にもシフトしていけると思います。

こういう練習の題材は、長文そのものでもいいのですが、短文ばかりで構成されている

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

英文法の問題なども、受験に必要な単語熟語語法が含まれているためオススメです。  
たいていは、隣に和訳が書いてあったりしていますので、対照もさせやすいです。

### (3) 英文を読む練習をするときの注意点

長文を読む姿勢として大切なのは、

#### ① 疑問を抱きながら読む

英文は1文だけでは不完全な内容提示になっています。その不完全な部分に対して、以後の展開の中で説明していくからです。

ココ?? なんだけど…

と思ったら、これはどういうことかな?

と疑問を持ちながら、そこを解決するために読み進めるゾ!

と意識していくことで、展開を押さえやすくなりますよ!!

疑問を持つことで、英文を能動的に読もうという気持ちができる、食いつきが良くなるんですね。

#### ② 展開を予測してみる

次の段落はこのことを、こんなふうに展開させるのかなあ?

と考えながらパラグラフを読み進めていくと、なんか予想と違ったりすることも

ありますが、それだけ内容に入り込もうとする姿勢が出来ていますので、内容が頭の中でまとまりやすくなりますよ!!

#### ③ 1文の内容を暗記して、次の1文を読む

こうすることで1文ごとのつながりに強くなっていきます!!

長文を読む時の元凶は読んだ内容を忘れていくことにあります。

構造考えたり単語の意味を思い出したりしながらのうちは、尚更なんですね。

苦勞して読み取った1文だからこそきちんと記憶してみてください。

そうすると、頭が整理されていきやすくなり、段落の要旨などを掴むスピードにも好影響ですからね!

でも一番大切なことは、これら全てを試験で発揮するのではなく、その設問に答えるための最小限をしっかりと捉え、的確に解答を作成することを勉強のメインにすることです。英文を1文1文つながりを含めて捉えられるようになることは大切な武器ですが、あくまで戦闘での歩兵銃にすぎません。

大きな大砲やどの場面でどの武器を使うべき、という作戦がもっと大切なことですので、

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

なんとなく英語が出来るようになってきた、というレベルで戦場に行かないでください  
ね！！

仕組まれた罠にことごとくハマられてしまうことになってしまいますので。

焦った気持ちで速読？みたいな練習を積み重ねているだけでは、目の運動に過ぎないこ  
とも多いですので注意してくださいね！

### (4) 英語の音読について

音読をやりまくれば英語力は上がる、というのはある意味正解で、ある意味不正解のよ  
うな気がします。

隅から隅まできちんと把握した英文を音読することは英語学習の基本だとは思っていま  
すが、音読をすれば点数が上がるか？と言われれば、この点については、いささか疑問  
が生じてしまいます。

あくまで音読は英語にたいする慣れを作るものであって、点数アップを約束するもので  
ないのです！

英語には論理性、文法力、方向性、といったものと知識とのバランス、そして、設問に  
的確に答える考え方、といったものが備わってこないと点数アップ自体をはかることは  
難しくなってきます。

音読は、あくまで英語を支える補助手段であって、それですべてがまかなえるほど  
万能な手段でないことを意識した上で、音読だけに依存する勉強にははまらないように  
してください！！

解くための戦術は、入試である限り必要手段であるわけですので、そのことへの意識を  
忘れないようにはしてくださいね。

### (5) 英語長文の空所補充について

英語長文の空所補充では

- ①かたち(熟語、指示語、キーワード)
- ②論理(プラスマイナス、イコール、因果)
- ③最終手段で、内容

に着目して解くことを考えます。

内容から入る人は、相手(大学側)の思うツボになります。

そういう人を落とそうとするテストでありますので！！

内容的につながっているから、というのは、ボケた考え方をしていることがほとんどで

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

すから、気をつけて下さいね！！

たとえば、次のような問題があるとします。

( ) it is fairly obvious why this does not happen.

① whereas ② but ③ though ④ if

このような問題を解くときに、みなさんはどうしますか？

「え、どうやって？とりあえず訳すしか」

では、とりあえず訳してみましよう。

①一方②しかし③けれども④もし

をあてはめて強引に訳してみます。

①一方、こんなことが起こらない理由は、きわめて明らかだ。

②しかし、こんなことが起こらない理由は、きわめて明らかだ。

③けれども、こんなことが起こらない理由は、きわめて明らかだ。

④もし、こんなことが起こらない理由は、きわめて明らかだ。

④が不正解であることはすぐに分かるのですが、①②③はどうやって区別するのでしょうか？

あなた「ニュアンス・・・」

でました！ニュアンス。日本人が英語の細かいニュアンスなんて分かるわけありません。ニュアンスを考える前に、文法的に考えてみましょう。

選択肢は、①従位接続詞／対比②等位接続詞／逆接③従位接続詞／譲歩④従位接続詞／条件、ですね。

問題の英文は、動詞が2つ (is, does not happen) あり、それを従位接続詞が1つ (why) でつないでいますから、文中に従位接続詞は要りません。

よって、正解は②と分かります。

これは極端な例ですが、文法的判断を行うことで正解が分かったり、選択肢を減らすことができる場合が多いのです。

空所補充問題対策のポイントとしては、大学側が何を狙っているかをつかむことです。時制の一致なのか、自動詞・他動詞なのか、動詞と前置詞のコロケーションなのか。こういった傾向をつかむことでの対策が必要となります。

さて、こうした①かたち(熟語、指示語、キーワード)で正解が出せないなら、②論理(プラスマイナス、イコール、因果)の確認作業を意識的にやってみてください。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

特に、同意表現を探す作業は、そのまま英文の要旨をつかむトレーニングにもなります。

これは、大学に入ってからぜひとも必要な力です。

だからこそ、空所補充の形で訊いてくるわけです。

### (6) 英文速読のためのコツ (その1)

代名詞の it が主語にあるとき

①前文の主語を指すことが多い←they についても同じことが言えます

②後に続く、不定詞、that 節、疑問詞節を指す←仮主語の構文です

③強調構文(分裂文)

この3つの可能性をこの順で考えておいてくださいね!

とくに①が重要です!!!

ちなみに、that や this が主語になっているときは、前文の後ろの方の新情報を指していることが多いことも記憶しておくべきですよ!

### (7) 英文速読のためのコツ (その2)

that 節は筆者の頭の中の思考です

→すなわち主張です

動詞の目的語になっているとき、その動詞は「思う」「言う」の意味になるのはそのためです。同格の that 節も理屈は同じです。

極端な話ですが、that 節の中身を追っていきただけでも主張は取れてしまいます。

積極的に that 節の中身の内容を汲み取ることを心掛けていくだけでも立派な速読になるわけですよ。

### (8) 英文速読のためのコツ (その3)

動詞 目的語 to V は、S V O C の代表的な形です。

このタイプの動詞は

①思う、願う

②→→→(原因結果の→)

のどちらかになります。

主語が無生物なら②タイプですので、S→O→C (不定詞も未来への→です)

と、左から右へ流れをとらえ、Cの新情報が次にどう繋がっているのかを考えながら、次の1文を読むべきですね。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

### (9) 英文速読のためのコツ (その4)

① 文頭に分詞構文は前文の状況を繰り返したり、次の主文への前フリ的な働きなのでカット

→ここを空所で尋ねられているときは主文との関係で決める!

→ちなみに文頭の副詞の固まりはすべて同じ働きをする

② 主語の直後でコンマを従えている分詞構文は、主語への付録説明なので、カット

→訳す必要があるなら

「～ので、～のだが、～なら」

などを補って最初の段階で訳しておけば OK

③ 文末での分詞構文は主文の内容に対する説明なので、主文内の下線部問題への解答根拠となる

→速読するときはカットして問題ありません

### (10) 英語のパラグラフリーディングについて

英文の読み方として、パラグラフリーディングのやり方を質問されることが多いんですけど…

今まで受験生を見てきて、英語をマスターした人間から言わせてもらったら、

**本当に1文1文きちんと読めているのか?**

ということを自分自身に問いかけて欲しいのです。

パラグラフ単位で流れをつかむことは大切です。

それにより解きやすくなる設問もありますからね。

でも、それほどの国語力を必要とする英文ってあるのでしょうか?

単にラクになるから、とか、それをマスターしないと不利になるから、とか考えていませんか??

**本当に必要なのは、1文1文を正確に読める力と、中学レベルの国語力なのですよ。**

全訳読んで、たちうちできない内容なら、考える必要はありますが…

全国の大学の英文を見ていますが、正直そんなレベルの英文なんてありませんよ。

まず、パラリーよりも**精読をスーパー速くできるレベルを鍛えてください**ね。

**精読ができない回避ワザとしてパラリーを選択してはいけません。**

ヘタすると「策士策におぼれる」になりかねませんので。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

### (11) 英語長文読解 (緩急→焦点合わせ)

全部訳そうとしないこと。すべてを明らかにしようとするしないこと。

読んで解く、のではなく、解けるように必要なことを読み取るのです。

必要、不必要という焦点を合わせる練習を重視しましょう！！

すべてを明らかにしたいなら、そうして解くための練習をしたあとの英文を、アプローチし直して、細部への理解を訂正しながら明らかにしていくべきです。

解くことが英文を読んだあとの付録行為でなく、メインだという意識で解くための練習を重ね、解くためのポイントの見極めを速くできるようになっていかななくてはテストで使えない学力養成となってしまいます。

解く角度は様々にあります。

漠然と英文を全訳していっても時間を費やして練習したわりには、解く正確さや速さはなかなか身に付かないのですよ。

そこを解説等とアタマを付き合わせ、しっかり粘って考え直していくべきなのですからね。

あなたの勉強はどこに焦点が合っていますか？

あなたは、今までの努力で速く正確に解けるようになってきていますか？

細かいことも英語学習には大切です。

でも、細かすぎる些末的なことがほとんど入試では役に立たない、ということは覚えておいてください！

英語は、高得点が取れてなんぼですから、勉強の意識、焦点をしっかり考えて下さいね。

### (12) 英語長文をすばやく読むためのキーワード

①ほね

②おしり

③つなぎ

ここに英語長文をすばやく、しかも正確に読み取るための秘訣があります

(→ということは正確に解けるということです)

長文を読んで、泥沼にはまって理解できないか、高速道路でスイスイ進みながらも理解はバッチリかはココの把握にあると思います。

### (13) 英語長文学習の到達地点

今一度考えて欲しいことがあります。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

その読み方練習をしていって、自分が目指す大学(センター試験を含めて)の入試会場で速く正確に問題を処理できる力が身に付くのかどうか？

ということです。

実は、くまなく全訳読みなどをずっと練習したとしても、確実に点数を取れる流れにはなかなか行かないのが現実だからなのです。

スラッシュで切りながら前から訳すように読んでいるから大丈夫、というのも、かなり危ない考えです。

なぜか分かりますか？

入試はふるい分けるテストです。

スラスラ読める内容にはなっていませんし、頭に英文の内容をぶちこめばぶちこむほど選択肢は迷うように作っています。

そして、時間に対して長文の量が劇的に増加してきました(内容レベルは相変わらずややこしいままです)。

試験会場では、緊張とプレッシャーに溢れる状況なので、解答に対する慎重さも加わってスピードダウンしてしまいます。

敗因の一番は、時間が足りません(足りないように読むから足りないのです)。

その次の敗因は、読めなかった=解けなかったになってしまったことです(読めなかったからと言って解けないってことはありませんよ)。

訳せない箇所なんて、受験生がいくら頑張っても限界がありますから、いくらでもあります。

それでも、点数は高得点が要求されるのが英語です。

そんなことを意識しないで練習するなんて何か間違っていないですか？

基礎をある程度身に付けたらひたすら実践練習あるのみですよ。

時間制限内で根こそぎ点数を取る技をしっかりと磨いて下さいね。

### 6. 和文英訳・自由英作文

#### (1) 英作文を書くときは

下線部英作文なら、一字一句を置き換えるのではなく、意味内容をしっかり伝えるようにしてください。

難関大学ほど、その考え方で攻めないと日本語がこなれすぎて、そのものを正確に表現するのは難しいからです。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

暗記したものを取り出すのが英作文ではありません(ベースの知識は必要ですが)。

その日本語はどういうこと?ということを考えて、主語なども決定しないといけないこともありますし、意味をしっかりと捉えてないと時制や場面にふさわしくない単語を選択してしまったりしますので気をつけてくださいね!

出来るだけ簡単な表現を使って、シンプルに英訳していく姿勢でいかないと、ごちゃごちゃ書いて難しい単語を使用したあまり、語法や内容面で?なものが出来上がってしまったりしますので!!

見づらい読みにくい解答には採点は厳しいと思いますので、見やすく意味を捉えやすいものを書くように心がけてくださいね!!

### (2) 英作文の問題集、参考書をやる前に

本格的な英作文の勉強をする前に文法を鍛えてください!!

文法問題を解いたあと、和訳を使って、短文を正確に書く練習をしてください。

一石二鳥ですね!

私は、東大模試や京大模試や全国記述模試の採点の仕事もしていました。

その時の解答を見て率直に思ったことは…

英文じゃない解答がほとんどじゃんってことです。

三単元の S を忘れている、

時制の形がおかしい、

主語がどれかわからない、

他動詞なのに目的語が書いていない、

冠詞が抜けまくっている、

単数複数を意識していない、

仮定法の形がおかしい、

受動能動の選択がめちゃくちゃ、

接続詞/関係詞の使い方がおかしい…

単語のスペルミスより、こういった文法的におかしい英文が数多く見受けられるのです。

(ほとんどの答案がそうなんですが…)

それも中学生レベルの間違いがとにかく多いのです。

採点はなんとか点数をあげるようにしてつけられますが、正直、ほとんど 0 点の答案なのです。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

だから、中学の復習をする時簡単な英文を簡単に書ける力を養ってほしいですね。

そして、大学受験用の英文法の問題をやる時、ついでに英作の勉強として、その短文を使ってください！

英作文の参考書や問題集をやるのはそれからでも遅くないですし、むしろそうしたほうが、確実な英文が書けるようになると思いますよ。

英作文用の例文だけを暗記しても、効果は薄いと思います。

入試で必要なのは、あくまで、内容が伝わる英文が書けるかどうかであって、実際に使えもしない高度な表現法を学ぶことではありませんので…

よく英作の授業で、この表現はこんな風にも書けるよ、と別解をたくさん出して指導されることがあると思いますが、ほとんど、熟語や構文スタイルを変えているだけのものにすぎません。

英作なら、1つの表現を覚えて、型を作っておけば、それで十分なんじゃないでしょうか？

あれこれ覚えて、どれも使いこなせない、なんてことにならないようにね。

あと、ニュアンス的に、この表現は微妙とか、この用法はあんまりよくない

ということを指摘している本なんかもよく出回っていますが…たかだか6年くらい英語を学んでるレベルでは、そんなこと気付きませんし、たとえその問題に対しての説明には納得できても、また別の日本語などには、応用が利きにくいのではないのでしょうか？  
受験生は他にやることがたくさんあるのです。

むしろ、ほとんどの人が0点の答案を書いているので、60パーセントの点数をどうやって取れるようにするのかを指導してあげられたら、それで英作は十分なんじゃないでしょうか？

受験生のみなさんは、英作文に対する姿勢を改め、読解に十分時間を割いてください。それがあある意味で、身のためになると思いますよ。

ちなみに、英検1級を取っている人たちでも、英作文はかなりヒドイ出来であることを知っておくとみなさんの励みにはなると思います。

### (3) 自由英作の視点 (その1)

自由英作の本などに入試の正解として掲載されているものを、受験生が練習によって書けるようになる、という幻想は捨てるべきである、ということです。

英作文を完全な形に仕上げるには、相当かつ膨大な時間を必要とします。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

英語を教えて 10 年くらいの先生でも、正直、まともな英文が書けないのが普通なのですよ！

場面に応じた適切な表現を選ぶ、というのは、英語経験の浅い私たちにはどだい無理な話だと思います。

ましてや、制限時間がかなり短い中で、あれだけの語数で書くことを要求する国公立や私大の入試って正気の沙汰とは思えません。

こういう現状を踏まえ、自由英作対策というものを考えていかないといけない訳なのです。

理想を追って、今覚えている高尚な表現を試験当日に違うテーマのネタで発揮できるのでしょうか？

自由に表現を選択できる立場にあるのに、そんなに面倒な表現を使う必要があると思いますか？

たいていの指導は単なる理想の追求にすぎず、受験生がそのレベルについていけないにも関わらず、この本のことを覚えればなんとかなるだろうと頑張っ暗記したりしているわけです。

そういう努力に関わらず、実際の受験生の自由英作の解答なんて、合格者でもまともなものに仕上がってないのです。

模試の採点をしていると、採点する気が起こらないくらいヒドイものなのですよ。

### (4) 自由英作の視点 (その2)

自由英作では、採点対象は

①論の流れは大丈夫？

②分かりやすく

つまらない文法ミスがなく書かれている？

③字数を満たしている？

ということをおよそ5段階で採点します。

内容の高度さでなく、流れがまとまっているか？

ということ意識しつつ、平易な分かりやすい表現を使って最後まで書いてしまう、ということですね！！

採点側としたら、大量の答案を公平にさばくのに内容の優劣を公平につけていたら採点

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

が進まなくなりますので、まとまりがあるか？整合しているか？

という観点をチェックするしかない。

そして、書く時間が非常に限られている中で大量の文字数を書いていくことは、受験生にとっては大変な苦勞が強いられているわけです。

当然、内容を練り込むほど限られた時間の中では語数内できちんと展開させることが難しくなり、表現を工夫すればするほどミス誘発していき、最後には書ききれなくなっていく、ということが頻発するわけですね。

そこで、「ゲリラ的」自由英作の書き方の最大のコツとして、

- ・ 50 語を 3～4 文で書く
  - ・ 骨格になるとりあえずのシンプルな構成を簡単に作って、後から枝葉を足す
- というルールを挙げてみようと思います。

シンプルな構造を考えず、いきなりフルセンテンスの完成英文を 1 文 1 文書いていくと構成がおかしくなりやすいですし、文法ミスも誘発するものです。

字数が多くなると展開が書いている自分でさえよく分からなくなり、支離滅裂になったり、途中で行き詰まってしまったりします。

### 50 語だと

① シンプルな骨格の英文 3～4 文で流れを作る

② 枝葉的な修飾を付け足して 50 語に調整する

という流れでつまらないミスを減らすことができます。

100 語だと、それぞれのパートの英文に 1 文ずつ足せば OK です。

150 語だと、それぞれのパートの英文に 2 文ずつ足せば OK です。

200 語だと、それぞれのパートの英文に 3 文ずつ足せば OK です。

ただし、150 以上だと、譲歩や対比の意見を入れて、その意見の矛盾をついてから自説への展開に持ち込んだり、例を増やして説得力を上げるのもいいとは思いますが。

### (5) 国公立二次英作について

英作文は、たいていの受験生はまともな英文で書いていません。

合格者であっても、です。

日本語を完全に英文に訳す作業って非常に難しい面があります。

できるだけ、日本語自体を噛み砕いて内容の 60 パーセントくらいを自分に使える正し

# 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

い英文で書いてみて下さい。

日本語には、アヤというべき内容と無関係な表現が多数含まれています。

英文になるといったってシンプルに表現されるということを知った上で、できるだけ日本語を英文にただ置き換えるのではなく内容を伝えるようにしてみてください。

小さな減点など気にせずできるだけ上手く逃げましょう。内容を伝えるのですよ。

## 7. 英語の勉強方法（日々の学習方法）

### （1）偏差値 70 台に乗せるための英語勉強法

英語の勉強と言えば、やはり最初は、語彙力の強化と文法語法の吸収に尽きると思います。

文法語法には理論みたいなものも多少は存在しますが、語彙力、文法語法の運用力は高速で無意識に取り出せるか？

で決まります。

単語や熟語を見たとき、「迷わず瞬間的に」意味が出せますか？

文法語法問題を見たとき、2～5秒で答えと理由が思い浮かびますか？

こうした力には、インプットというよりそれ以上のアウトプットが必要になります。

高速でどんどん回していき、常にアウトプットする訓練で初めてインプットは使える形で完成します。

スピードが何よりも大切なので、1つ1つに対する滞在時間は、はじめの一周は遅くても構いませんが、その後は、分かっても分からなくてもどんどん確認どんどん進めていくのです。

ある程度回したら、印分けをして、不確かなもの、出来ないものを中心に回していくのがもちろんいいとは思いますが。

少しずつチマチマしては、ゴールにたどり着く前に挫折するか、その間にもどんどん抜けていくことでしょう。

だから、最初のうちは、英文解釈とか英作文などの勉強は邪魔になるくらい、これらの勉強に没頭すべきです。

語彙力と文法語法力が最強になってきてから、解釈系を始めた方が伸び方も断然違ってきます。

逆に、秋に長文の読解力や得点が伸びてこないのは、こうした英語の根幹の力がひ弱な

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

ことが原因となっています。

英語のパラグラフの内容理解能力ではなく、1文そのものの理解力の弱さ、つまり、知識レベルの弱さが長文の把握力の違いを生み出すわけです。

パラグラフリーディングのコツは早い段階で掴んでいても問題ないのですが、知識が根本的に欠けているものを補うテクニックはありませんので、早い段階では知識の補完、充実を図って徹底的に練習をすべきですね！！

英作文などは上記の力が必要なので、最初の段階では全く手をつけなくて結構ですよ。

先に読むための練習を徹底してくださいね！

バランスよく色んな勉強をコツコツしていくやり方は、結局、中途半場な力を養うことになりますので、

まずは、語彙、文法語法

ここだけ、しっかり固めてくださいね！！！！

### (2) 英語全般の勉強方法

まずは①～④を同時進行してください！（1ヶ月）

①システム英単語 ver 2 の第1章、英単語ターゲットの第1章の訳語と語法を覚える

②ネクステのイディオムのページを暗記←手持ちの英熟語集なら300個前後の暗記

最初は欲張らず、英語→日本語を練習してください！

③英文法レベル別問題集レベル2、3を右側のポイントが口で言えるまで復習

④構文集の例文を使って、基本構文の訳し方を覚える

s o ~ t h a t …、強調構文など

次に英語長文なのですが、ここからすぐに実践に入ります！！（2ヶ月）

⑤マーク模試の過去問を用意して

時間はいくらかけてもかまいませんので、最初は自力で解いてみて（この段階ではうまく解けないと思います）ひとつひとつのことをゆっくり確認して復習してください。

←ここが本当の勉強ですので、手抜きのないようにしてくださいね！！

⑥新しい模試も同様にこなしていき20回は最低こなしてください(理想は30回以上)

⑦この時点では時間はかかりますが、150～170点あたりが出せるようになります

←出てないようなら、復習確認をかなりサボっていますよ！

知識、演習の仕上げとして（1ヶ月）

⑧ネクステをすべて3周くらいまわして、漏れを確認してください。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

⑨単語、熟語の数を増やしてください。

これと同時に

⑩センターの過去問を2008～2012の本試験、追試験を時間を計って行い、細かく確認をしつつ、速く解く流れを見つけ出す（←ここはしっかり考えてください）

同時に

⑪発音アクセント、文法語法、2者会話問題を1990～2007の本試験、追試験で補足していき、さらに同時に

⑫1990～1996の第5問（短い評論）

⑬1997～2007の第4問（グラフ系問題）

⑭1997～2007の第3問（論理問題）

をこなしておくで、解ける（処理できる）幅に余裕ができますよ！！

ここまでやっておくと、170以上はキープできるようになります！！

あとはミス（見落とし、勘違い、早合点）をするかしないかで180点台になるか190点台になるかが決まります！

学習ポイントは、暗記に時間をかけすぎず、基礎練習に時間をかけすぎず（←これだけで満足するのはマズイです）演習をすることで暗記知識と問題を解くための流れを結びつけることにあります。

要するに、英語慣れを作ることを優先するのです。

細かい知識はあとでフォローすればいいのですよ！！

英語長文が取れたら点数アップをはかることができるのに、そのことへの対応が遅れてしまうことが原因で総合点が120前後で終わってしまうパターンが多いのです。

かと言って、短い長文が掲載されている一般的な問題集だけではセンターが要求している長い長文から必要な情報をピックアップする練習ができないことと、長さに心理的に負けてしまう（←ここがネックなのです）パターンから抜け出せないまま入試をむかえてしまうことで、本番出たところ勝負→撃沈となってしまうのです。

だから、模試や過去問でこのあたりの流れをどんどん払拭していき、同時に必要な暗記をしつつ、さらなる補強をしていくのが結局近道の練習になると思います。

こんな感じでまずはセンター攻略を頑張ってみてください！

ある程度の流れまできたら、私大や二次への対応へと移行するのもイイですよ。

センターがまともにとれないのに、難関私大や二次の問題をやりこんでも成果は出にく

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

い、ということも覚えておいてくださいね！！

あくまで、センターは基礎学力を聞いているテストですので、その力を鍛えておかないと、変化球の多い長文、設問への対応練習、記述的な練習が空回りしますのでご注意を！！

回数、期間等はあくまで目安ですので、適度にアレンジしてください。

とにかく複雑な構造とか内容に突っ込む前にセンター演習を入れていき、英語への速読速解に慣れを作っていく、余裕が持てるようになってから、複雑な構造や内容の練習をつくっていくとムダが少なくなりますよ！！

### (3) 英語の勉強は継続的に！

英語の勉強は毎日やってください。できるだけ1日も欠かさずやってください。

暗記できたと思っても暗記は続けてください。

英語長文を読む土台が出来上がってきたら、毎日毎日英文を読んでください。

英文法の勉強も同じ問題集に飽きたら、毎日角度を変えながら、別の問題集で演習を続けてください。

語句整序や正誤問題もやって、文法を様々な角度から眺め直すことも必要です。

和訳や英作の勉強に終わりはありません。

毎日なんらかの発見をするために新たな問題と格闘してください。

英語はめんどくさいと諦めたり、もう大丈夫という油断することからほころびが出てくる科目です。

入試直前まで、いや入試期間中でさえ、英語はやり続けていくべき科目です。

果てしない勉強とはなりますが、毎日毎日しっかり階段を登っていくって下さい。

必ず英語があなたを救ってくれます。

英語が得意になるだけで、受験はどれほど有利になるかを意識して頑張ってくださいね！！

### (4) 英語の勉強のコツは極端→バランス

英語の勉強の最大のコツは「何かひとつを得意にしてしまう」ことにあります。

ふつうは、始めのうちは、英単語、英熟語、英文法語法、あたりをバランスよくやりながら、英文の構造をとらえ精読する練習をしながら、簡単な長文を読み、慣れていくに従って長文のレベルを引き上げていき、同時に英単語、英熟語、英文法、リスニングを

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

やりつつ英作文の練習をしつつ、和訳の練習や整序正誤問題に取り組みつつ、私大やセンターの過去問をやりつつ、バタバタといろんなことをスクランブルさせながらも勉強をやっていって、英語が結局総合的に伸びなかつたりするのです。

何故かわかりますか？

英語に対してそんなにマメにいろいろ時間を割くことをしない、または物理的に時間を割くことができないからなのです。

あれこれやるうちに、何かやることが疎かになります。

時には、英単語のチェックを一週間くらい放置してしまうこともあるでしょう。

何かに時間を割けば何かの時間が削られる

そんなところが英語の伸びを疎外しているのです。

あわてず、まずは、ひとつ、ふたつのことに絞って、それらを徹底して暗記なり理解なりをしてみてください。

これらが完全になるまで他のことをやるな、というわけではありませんが、ほとんど身についていないのに他のことに手を出すべきではありません！！

ひとつひとつをていねいにつぶしていき、きちんと頭にほりこんでいくと、英語の他のジャンルの勉強をするときにすべてが繋がって生きてきます。

そして、ひとつずつネタを増やすたびに過去のをすべて復習しながら進めていくのです。

始めに徹底して暗記理解をしておくと、復習は驚くほどスムーズに進みますので、ネタが増えていってもそれほどの負担にはなりません。

ネタを増やすたびにパワーアップを感じていくことになると思います！！

一気に同時にいろいろな英語をやるのではなく、絞って完成させつつ、ネタを増やしていき、復習をやりつつ新しいことにチャレンジしていく、という形が英語を最短距離で引き上げるコツとなります！！

英語を7ヶ月くらいで受験で戦えるようにするためには、このような流れを意識しておくのと良いとは思いますが。

私は、夏前まで、英単語、英文法だけに集中して回しまくり、夏直前に英熟語をぶちこみつつ、英単語英文法の復習をしまくり、夏には英文解釈教室を何周もやりつつ単語熟語文法の復習をしまくり、夏終わりごろから長文読解教室をひたすら読みまくりつつ、その他の復習をしまくり、秋には一気に成果が出てきました。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

こういうやり方が理想的だとは思いませんが、少なくとも英語シロートの自分が最終的に偏差値を 50 上げることが出来たわけですので、それなりの成果があるものだと思います。

今の時代、上記のようなちょっと使いにくい参考書や問題集なんかよりもっと使いやすいもので溢れていますから、さらに勉強は加速させることが出来ると思っています。

中途半端が何事もいけません。

特に英語は、中途半端な努力ほど成果が出にくくなり、あとで自分を苦しめてしまいます。

しっかりマスターさせつつ、新しいことにチャレンジという姿勢で英語攻略頑張ってくださいね！

### (5) 英語力診断テスト

問) 以下の英文を日本語訳しなさい

① That man is honest by nature is true.

② There is more leisure time than we know how to use;  
devoting some fraction of this leisure time to education  
could do much to raise the level of civilization.

③ In the examples I think of the person continued to behave  
in what ordinary people would agree is a normal manner.

現在の学力を計るのに最適な英文だと思いますので、頑張って正確な訳を考えてみてください (単語集は使っても OK です)。

① That man is honest by nature is true.

「主語がどこなのかを判別する力があるかどうか」を見るために出題しました。

that man が主語では 2 回目の is で???? となります。

ここで強引に「その男は生まれつき正直であるのは、本当です」とやらないでください  
ね。

「ただの文は主語になれません!!」

「主語になれるのは節のほうなのです」

文と節の違いを簡単に言うと

SV… が文

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

従属接続詞、関係代名詞、疑問詞+SV…の固まりが節なのです。

節は、一文の中で、大きな名詞、形容詞、副詞の働きをしています。

ココでは、That が従属接続詞で man~nature までをひとかたまりにまとめているのです。

That man is honest by nature is true. ということですね

S

V

無冠詞の man は「人」と訳しますので、

「人は生まれつき正直であるのは本当です」という日本語訳になりますよ。

②There is more leisure time than we know how to use;

devoting some fraction of this leisure time to education

could do much to raise the level of civilization.

There is more leisure time than we know how to use

は一見なんてことはない文のように見えますが、ここの **than** は関係代名詞で、**more leisure time** にかかる形容詞の節を導いています。

普段よく見る than は接続詞なのですが、いったい何が違うのでしょうか？

He **is** taller than I (**am**).

He **has** more money than **she** (**has**).

He **is** younger than he **looks**.

He **is** cleverer than he **used to be**.

は接続詞の than による普通の比較なのですが、同じタイプの文で比べていますよね（比較の原点となります）。

それに対して、He has more money than can be spend. なんかは have と spend という明らかに違う動詞を比較している英文となっています。

そして形のくずれも見えますね。

こういう場合は、which の代わりに than が使われていると判断してくださいね（先行詞に比較級がつくと、形式的にそうなる）。

He has **more money**

↑ ←←← **than can be spend**

「彼は使うことができるより多くのお金を持っている」

⇒ 「彼は、**使い切れないほどのお金**を持っている」

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

というように、裏の意味を否定的に入れてあげると解釈しやすくなります。  
本題に戻りますね。

There is more leisure time than we know how to use

ここも「私たちが使い方を知っているより多くの余暇の時間がある」  
と訳すより、「私たちが使い方を知らない余暇の時間がある」  
と訳すほうが意図が伝わりやすいと思います。

さらに、「使い方が分からない余暇の時間」すなわち、「無駄遣いしている余暇の時間」  
ととらえることができたなら、「私たちには、無駄遣いしている余暇の時間がある」  
という訳も許されると思いますよ（京都大学ならこんな日本語が望まれます）  
次に ; なのですが

セミicolonには、

- ① = 的 な 説 明
- ② 例 の 羅 列 の 区 切 り
- ③ and but or for などの接続詞の代用  
の働きがあります。

この場合は、一文めの意味が少しぼやけているため、

①の = 的 な 説 明

でとりあえず読み進めることにします。

devoting some fraction of this leisure time to education

S (動名詞) (devote A to B AにBをささげる)

could do

V

much (to raise the level of civilization)

O M (muchが不確定な内容なのでそこを説明している形容詞的用法)

とらえて、

「この余暇の時間の一部を教育にささげることは、文明のレベルをあげるための多くの  
ことをすることができるだろう」という直訳をまず作ってみます。

ここで大切な働きをしているのが could です。

まわりの時制が現在ですので、基本は、仮定法の could ととらえておきます。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

仮定法は現実の姿と反対的な仮説を作り、全文の内容と、裏返しの＝の内容を作ります。

そして、仮定法につき物なのが、if 節なのですが…見当たりません。

そんな時はまず、主語や分詞構文あたりを if 節の代用ととらえてみて訳してみるといいと思います。

devoting some fraction of this leisure time to education

if 節の代用

could do much to raise the level of civilization.

そうすると、「この余暇の時間を教育にささげていけば文明のレベルを上げるための多くのことをすることができるだろうに」

という感じで、まあおさまりのイイ日本語になりますね。

ここで大切なのは、仮定法で書かれたものの裏の意味をとらえておくことです。

この場合は、「この余暇の時間を教育なんかには費やしていないから文明のレベルをひきあげられるようなことはできていない」ととらえなおして（訳に反映させる必要はありませんよ）、セミコロンの前後で、＝の関係が成り立っていることを実感しておいてくださいね。

英文が左から右へ流れていることをうまく活用すれば、ここの to 不定詞を結果ととらえて

「こうした余暇の時間の一部を教育にささげていけば多くのことができ、文明のレベルがあがるだろうに」と訳出するのもありだと思いますよ。

### （6）英語に関するテクニックについて

テクニックというと、裏ワザ的な発想をされる方もいると思いますが、そういうものは残念ながら英語には存在しません！

ただし、大学側が要求する客観的な姿勢で、基本事項を正確に再現できる力を要求していることに対する答えの導き方を工夫しない限り、できる受験生との差はますます開く一方であることを認識して欲しいと思います。

多くの受験生を見て思うことは、これじゃあ難関大学には偶然にしか合格しないなあ、という解き方をされています。

つまり、方針が今ひとつ足りない、出たところ勝負的な発想でなんとなく解いている、と

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

いうやり方です。

英語長文問題で隔々読む必要もないのに、あたかもそれをやらないと解けないかのごとく躍起になっていたり、流れを問う問題なのに、視野が狭い考え方でテキストに解答を作っている。

そんな姿勢を見ていると、なんで気が付かないのだろうか？

という思いに駆られてしまいます。

また基本的なこと、つまり、そこはずしたらヤバイやろーってところで大胆なミスをしているのも、勉強の焦点が分からない、英語の勘所を掴んでいない、そういう姿勢の表われであることを痛感してしまいます。

### (7) 直前期の英語学習について

センターの英語の点数が伸び悩んでいる人、早慶上智、マーチ、関関同立の英語に四苦八苦ししている人へ

過去問をバリバリしながら、きちんとインプット（暗記系）をフォローしていますか？インプットばかりに集中して、過去問をバリバリこなすことがおろそかになっていませんか？

ただ問題をやって丸付けをしているだけで、解くために必要な視点を考えたりすることをおろそかにしていませんか？

英文法は読むため、正確に解くためにもかなり必要ですが…長文の出題がほとんどだから、という理由で英文法、語法の勉強がおろそかになっていませんか？

英語長文のスピードコントロールはできてきていますか？

あっさりとらえたらイイ問題、少し深くとらえたらイイ問題、かなり関係をつかんでおかないといけない問題、それぞれに合わせた読み方が、うまくできるようになってきていますか？

自由英作をするに当って、あらかじめ作っておくべきテンプレは、字数に合わせて、20パターンくらいは必要かと思います。

(単語を少し差し替えれば、いろいろ応用できる、パターン集みたいなものです)

案外英熟語、構文が合格のカギをにぎるのですが、現役生は特に、この部分の大事さを認識していないので出たところ勝負に考えている人がいますが、得点の安定性がはかなくなるので、しっかり確認をしておかないと、後から学習、では間に合わなくなります

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

よ。

英語は、総合力です。何かをするには、常に他の何かに関連してきます。

英作をするにも英文法、語法がからんできますし、長文を読むなら、すべてが有機的に絡んできます。

正誤問題集、整序問題集、発音アクセント問題集

これらも、必要ならかなりやりこんでおくべきです。

英語だけをやっているわけじゃないから…

という悲鳴や言い訳も分かりますが…

英語がこけたら、すべてが水の泡になります。

英語を 8 割以上確保した上での難関合格ということを忘れないでくださいね！

1 日英語を休んだら、3 日分後退するのが英語です。

### 8. 個別対策

#### (1) 英語の過去問について

英語の勉強をする時は、1 文 1 文の意味を正確に取る練習を頑張ってやってください。

でも、過去問やる時は、どうやったらあまり読まなくても解けるかを考えてください。

究極にぶっちゃけると、パラグラフリーディングだの、頭から精読だの、そんなに必要ないんだけど…といつも思うわけです。

入試は質問に正確に答えたらそれでいいわけです。

それだけのことなのに、何が必要なのを見極めずに英語の力をつける勉強をそのまま問題を解くのに応用しようとするんですね…

それこそ、入試側からするとと思うつぼのような気がするのです。

生真面目な頭の固い人をふるい落とす内容にしていますからね…

入試って、合格者は入試当日楽に解いて楽に点数を確保しているのが現実です。

このホンネって、なかなか分かってもらえないのですが、現実ってそうなんですよ。

予備校は、英語の解き方でなく、英語の勉強をやらせることを教えています。

ちなみに、予習復習をきちんとし、授業を真面目に受けて、短期間に点数が大幅に上がりましたか？

何かがズレているんですよね…

みなさんは、点数を根こそぎ取る方法を考えるべきです。

ウマイ方法なんていくらでもありますからね。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

しっかり過去問を覗いてみてください。

その長文問題って、隅々読まないと解けないものになっていませんか？

理想ではなく、現実を見つめてみてくださいね！！

### (2) マーク模試英語について

5月、6月のマーク模試を受けて、ショックを受けた人も多いと思います。

あれ?? 2年までと勝手に違う…点数が壊滅的になった人もおそらく多数だとも思います。

一応実力診断をさせてもらいますと…

0点～80点⇒まったく英語を勉強をしていなかったレベル（生まれたての赤ちゃん）

80点～120点⇒学校の勉強は真面目にやっていた、または単語くらいは真面目にやっていたレベル（言葉を話し始めた乳児）

120点～150点⇒そこそこ真面目に、受験勉強をやっていたレベル（幼稚園児）

ここまでの点数の人たちは、基礎力を付け直してください！！

正直、なんも分かっていないレベルです。

単語、熟語、文法が、大量に穴だらけだと思います。

時間が足りなかった…も同じレベルだと考えてくださいね。

処理速度が速くて正確＝英語の学力

ですからね。

単語、熟語の意味、形なんて、瞬間的に出せて、初めて役に立ちます。

文法セクションは1問10秒以内に即決正解でないと役に立ちません。

このあたりを急がないと、160～180点へのビジョンが見えてきませんので頑張ってください。

ちなみに、

160点～180点⇒実力差無しです（同じ人でも模試によっては上下しますので）

しかも、まだまだ、難関大学入試レベルの入り口だということも忘れず、細かい点検をしてください。天狗になって、大丈夫、なんて思っちゃダメですよ！

このゾーンの人が、センター当日に140点前後に終わることはザラにあるのです。

模試とセンターでは、聞かれている本質が違うのに、なまじできるように錯覚してしまうので、センターへの研究を怠るからです。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

すなわち、ナメてかかるんですね。

いいですか！！

実力者は、満点近い点数を取っていますよ！！

英語の満点者は、数1Aの満点者より多いときがあるくらいです。

きちんとした基礎学力をつけたら、満点近くを狙えるのが英語なんです！！

(リスニングは、なかなかのひっかけがありますから、あくまで筆記のみの話です)

まぐれで失敗しても180台で終わらせられるくらいの学力にしておかないと、あなたのセンターでの点数が150くらいになってしまいますよ！

そして、150くらいを最終目標にしないでください！

そんな人は、努力をしない言い訳、逃げ道を用意しているとしか思えません。

真面目に、繰り返しやっっていけば、自然と170点を超えてきます。

たいした能力がなくても、英語はできるようになります。

決して、センスやなんかで決まる教科ではありませんから。

二次試験の英語、難関私大の英語は、もっと難しいですので、マークはあくまで通過点です。

英語は入試では裏切りが少ない(難問が作りにくい)科目ですから、しっかり高得点を狙いましょう！

ただし、勉強は重労働ですので、負けずに努力できたら、のハナシですけど…

夏過ぎに、基礎力が完成していなかったら…英語とともに崩壊です(追い込みがききにくい&他教科に手を取られるetcの理由で)

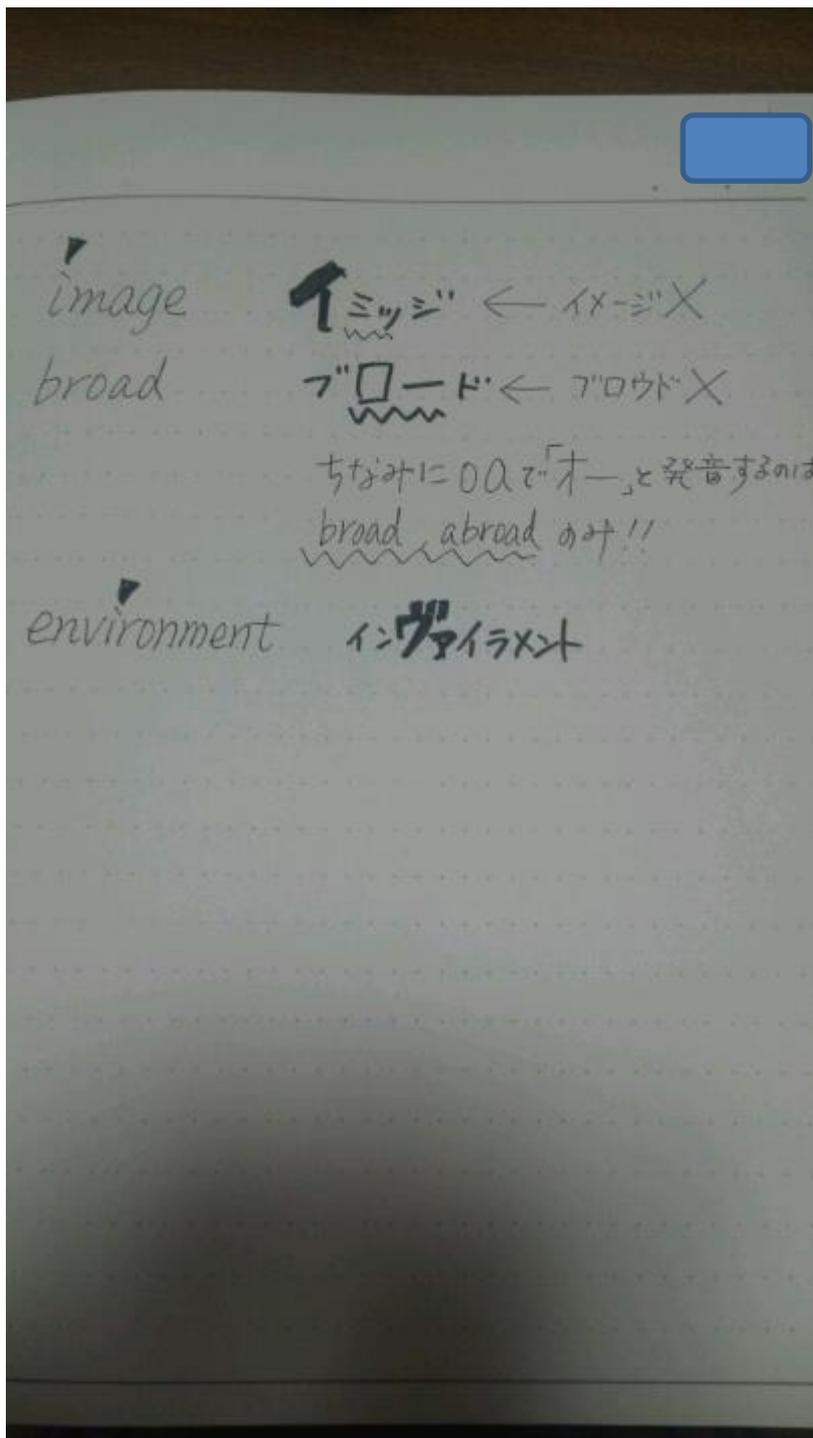
こうした事実気がついていない受験生が80%くらいおられるので、あえて苦言を呈しました。

一刻も早く、自分のケツをたたいて、基礎学力(単語、熟語、文法)を身につけてくださいね！！

### (3) 英語のマーク模試の復習の仕方

①発音アクセントはその場で覚えてしまう。

まちがいやすいのは、ノートに大きくカタカナで読み方を書いておくと後で使いやすいですよ。



② 文法語法は、何故それが答えなのか？を理由づけしながら復習して、必要な紛らわしいポイントをその場で暗記してしまうこと。

忘れやすいものはノートにストックしておく

← 懲りすぎないでサラッと書いておく

③ 長文は、一行ずつ丁寧に読み方を考えながら、解説とともにチェックしていく。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

この時、手持ちの単語集で分からない単語をチェックしておき、解説のフレーズ訳も一緒に見ておくと、訳語だけでなくまとまり的な使い方がよく分かるようになりますよ。語学はここで手を抜かずに頑張っておく必要があります。

ポイントを押さえる読み方をマスターしたとき、こうした力が支えとなりますからね。単語集にない単語は、無駄な単語、もしくは、簡単過ぎる単語、もしくは、派生語などの変化した単語なので、ちょっと見極めが必要となります。

熟語や語法の大切さに気がついていない受験生は多いので、そのあたりに不足を感じたら、同時にネクステなどまとまりのいいもので同時に暗記してしまうようにしていきます。

こうしてみると、英語には相当時間がかかることに気がつくとは思いますが。

でも時間がかかることは短縮しても時間がかかるものですから、諦めずできるだけ速く学習していくしかありません。

初めは辛いでしょうが、この経験値は確実にたまっていくものですから、後でどんどん楽になっていきます。

だから辛くて、めんどろだと投げ出してはいけませんよ！

そしてひとつの英文が終わりましたら、その英文がスラスラ意味が分かるまで読み直しておくと、さらに定着しやすくなりますので、だめ押し作業を必ずしておいて下さいね。力がついてきたら、これらの作業のほとんどは必要なくなりますよ。

こうして模試を重ねていき、またしばらくしたら、模試ごとすべてやり直しておけば、さらに定着しやすくなります。

### (4) リスニング上達のコツ

リスニングを上達させるには、2つの条件があります。

- ① 英文をアタマから下しながらだいたいの意味が確認できる
- ② 音に慣れている（単語の発音、リエゾンに対応できる）

リスニングで点数が取れないときは、上記の2つの条件のうち、片方、もしくは両方が、欠けているのです。

確認の仕方は、リスニングの原稿を、1分間に100～120ワードの速度で左から右へだけの一方通行のみで読んで最後まで読んだときに、内容がだいたい残っていたら①はクリアしていますので、②の条件を満たすように練習していきましょう！！

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

読んだ後、ほとんど内容が再生できないときは、リスニングの練習と、同じレベルくらいの英文を左から右へだけで、読み下しながら意味をとる練習もあわせていきましょう！！

それでは、リスニングのための基礎訓練法を紹介しましょう。

n o t a t a l l

って、実際はどんな発音で飛び込んでくるか知っていますか？

「のっと、あっと、おーる」

じゃ、ありませんからね。

実際は、

「ならろー」 「なだろー」くらいに聞こえてきます。

t と 母音

が重なると、D と 母音、L と 母音くらいの発音になるんですね。

なぜ、こういう発音の流れになるのかは、英米人が複式呼吸で、一気に破裂させるかのように一文を読んでしまうからです。

腹式呼吸で、一気に読むとき、P T K B Dのスペルが読むときの流れに逆らおうとします。

だから、これらの言葉は、腹式呼吸に乗っかるように発音されるのです。

n o t a t a l l

を腹式呼吸で吐き出しながら、一気に発音するとき、t が邪魔をしているのがよくわかるとおもいます。

よって、ストレスのかからないLあたりに勝手に変換されてしまうのも分かるでしょう。

このあたりは、学生時代に、西村喜久先生が、本やカセットでおっしゃっていて、タイヘン参考になりました。

残念ながら、古本屋でたまに見かけるくらいの先生の本ですが、あらためて読むと、英語に対する姿勢を作ってくれた気がします。

先生のリスニング上達の法則を書いておきますので、自分で参考に、英文にカタカナで、ルビをふってみるとすごく聞き取りやすくなると思います。

そして、腹式呼吸をして、一気に一文を言う練習も続けてみてください。

聞き取り能力が、格段に上がりますからね。

じつは、しゃべれないと、聞き取りが難しくなるんです。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

英文に対する発音が良くなれば、聴ける幅が広がりますよ。

毎日、カタカナのルビつきスクリプトを読んでから、英文を聞き込むと、音に対する反応が格段によくなりますから。

あとは、英文を読む流れがうまくなれば、さらに上達するというわけです。

読んだものを書き取るディクテーションや、読まれてくる音声に追随しながら音読していくシャドーイングも効果がありますが、さらに効果があるのが上記のやり方だと思いますよ。

音慣れ頑張ってくださいね！！

西村先生のリスニング上達の法則

① t + 母音

⇒ d + 母音 または l + 母音 に聞こえる

② t + 子音

⇒ t は 無音になることが多い

③ 単語の語尾が p t k b d

⇒ 無音になることが多い (次の単語の最初が子音の場合)

④ m n g + t

⇒ t は無音になることが多い

⑤ 母音 + f

⇒ f が v に聞こえることがある

⑥ t h e m h i m h e r

⇒ エム イム アー に聞こえる

⑦ 文尾が p t k b d

⇒ 無音になる

⑧ t r + 母音

⇒ チュ + ( ラ リ ル レ ロ )

⑨ 子音 + t

⇒ t は 無音

⑩ o f

⇒ かすかな ア に発音される

参考に、ルビをふって研究してみてくださいね。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

語学力は、反復でしか身につけませんので頑張ってくださいね。

### (5) 早慶のための英語練習 (その1)

英語は本来、膨大に勉強することがあるのですが、早稲田大学に合格するための最短ルートとして、あえてシンプルな流れで書いてみようと思います。

基本的には、覚えることを最小限にして、演習とくに過去問に時間を費やす。

という戦略になります。

暗記物→演習→暗記物と演習のバランス

って感じの流れがいいですよ！

ただし、暗記物を軽視しているわけではありません。

特に、文法、英熟語(前置詞の働き方も含めて)を、徹底的にマスターすることは不可欠です。

→間接的、直接的に得点に直結するからです

文法問題はあえて 5000 題を目標にこなして下さい！

正誤、整序問題もそのなかに含めて下さい！

→問題集をこなすごとにスピードや正確さがあがりますので、ネクステや英文法レベル別問題集などでベースを作ったら、どんどん問題集をこなして類題などに慣れていきましょう！！

(一冊だけを回していても、類題に対応できるかどうかは不安なので、必ず数種類やってみてくださいね！)

→滑り止めのためにマーチ対策にもなります

→早稲田では間接的に尋ねてくることが多いので、いつでも当たり前の知識として取り出せることが要求されているのです

英熟語は、意味が出せないと読解に悪影響します。

形が出せないと問題が解けなくなります。

前置詞を理解しておかないと、類例に気がつかなくなり、知らない熟語が長文や選択肢に登場したときに意味の方向性が予測できなくなります。

早稲田では、英単語だけが突出して必要とされているように思われる問題形式のためについつい英単語の暗記の数を増やす傾向にあります。システム英単語など一冊で十分ですのでしっかり回しつつ、文法や英熟語などに時間を費やすことが大切です。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

単語だけでは点数的に限界がきますので、このあたりを注意してくださいね！

長文を読んだり解いたりする前に、こうした暗記を「ある程度は」固めておいて下さいね！！

そうでないと、過去問をやったとき、何が原因で点数が取れてないのか？

という分析をしたりするのに大きな弊害があるからです。

暗記物を完全にするのは、過去問に取り組みながらでも出来ます。

あくまで、ある程度解ける力を作っておくことと、確認するときは無駄な時間がかからないようにすることが目的です。

こうした暗記に最初から完璧主義で臨まないようにしてくださいね！

途中で挫折してしまい、結局やってない、という事態になるのが怖いのです！

英単語、英熟語、英文法を合わせて1ヶ月～2ヶ月くらいで固められる量が最初としては丁度いい量だと思います。

### (6) 早慶のための英語練習 (その2)

大きな流れとして

①英単語(熟語もやれたら・・・)、文法 **語法** の強化

②構造のルールを把握する(with 短文～中文)

→ここまでは基本！！！！

③**マーク模試過去問のやり込み！**

→30回はこなして180以上が当たり前に取れるようになるまで、復習&新しくトライ

④**究める英語長文**をやり込む

⑤**早慶過去問へ！！**

→解く視点をガッツリチェックして

**最短距離で解けるようにしてしまうこと！**

マーク模試で基本英語への慣れを作る

↓

究める英語長文で本格的な長文にくらいつく

↓

早慶過去問で視点を固定&応用できるように！

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

一般的な長文問題集は、長さが圧縮されていて、または扱う英文が古くて硬い…  
または内容が哲学に寄りすぎてる…

さらに、設問が rewrite されているため角度が甘いです。

そして、マーク模試レベルがコントロール出来ない、というのは早慶においては、致命的な欠点ともなってきますので、やはり 180 以上は最低欲しいところです。

成果の出やすい練習法として、考慮されてみてはいかがでしょうか？

そして、マーク模試をやりこんで 180 以上がコンスタントに取れるようになってきてから、

←基礎がある程度集結してきた！！ということですね！

←この位置までこないと早稲田の練習すら空回りしてしまって何も出来ませんので！！

究める英語長文！

←鬼ハードな英文が並びますがポレポレみたいなものよりより実践的な英文が並んでてしかもかなりポイントをついていますね！！

←パラグラフリーディングもついでに学べるオトクな内容になっています。

そうすれば早稲田慶応の過去問へ行って大丈夫です。

←ここで苦しんでください！！

←早目にこの段階にこないとたいていは入試に間に合わなくなり、試験当日、完膚無きまでに撃沈させられますので！！！！

←この過去問練習は、何度も繰り返したいので時間をしっかりかけたいのです！！

9月(最悪でも10月はじめ)には→これからなら11月はじめ早稲田の過去問をやれるようにしとかないと、ほんま、ヤバイことになります。

### (7) 国公立英語の二次対策 (その1)

国公立二次、センター、難関私大

こと、英語に関しては勉強に関する様々な考え方があります。

音読がいい、速読がいい、いや、精読がいい、いやいや、その前に1文1文の構造を明確にできる練習が必要だ。

まあ、どれも的を得てるところもあるし、どれか1つだけでも、まあ、ダメでしょう。

英語は、すべてが有機的に結びついていて、片寄った勉強では「ある程度」までしか伸びません！！！！

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

つまり、テストの種類や難度によって結果は左右されていくような力に落ち着きます。英語にオールラウンドな力を求めて勉強の間口を広げてしまっても、なかなか伸びにくいものなのです。

むしろ、エリアを絞る考え方が必要になってきます。

あくまで、基礎的な知識はしっかり固定した上で、それらをどうやって使いこなすべきか？

という視点で自分が志望校に合格するために、どうやって特化すべきか？を、同時に考えていく必要があります。

.....

仮に、名古屋大学理系学部合格したいとして、英語に関してあなたはどのような戦略を立てるべきか？分かりますか？？？

もちろん、数学や理科の出来具合にも当然左右されるわけですが、

仮に、あの名古屋大学の面倒な数学は、これから必死に練習しても半分取れることがせいぜいとして←大半の受験生はそうですが・・・

理科は、そんなに難しくないので8割を狙うとして

問題は、それほど難しくないと言われる英語の処理です。

実は、去年のデータでしたら、工学部(仮に建築とします)なら

センター8割で600点中の480点として、合格者の平均点は1080点だったので、二次は600点を取れば合格者の真ん中くらいでした。

二次の配点から見ると、

英語300点→8割取れたら240点

理科500点→8割取れたら400点

数学500点→0点？で合格してしまいます

英語が出来ると得じゃないですか？？？

医学部だと

センター900点で9割取ったとして810点

合格者の平均点は1927点でしたので、二次でおおよそ1100点を取れば合格者の真ん中に入るわけです。

二次の配点から見ると、

英語500点→8割取れたら400点

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

理科 500 点 → 8 割取れたら 400 点

国語 150 点 → 4 割取れたら 60 点

数学 500 点 → 240 点で合格！！

となるわけです。

大抵は、適当な？練習をして、そこそこ(5割～6割前後)の点数を取る形をとりあえず考えて、当日の、数学の出来具合に賭ける、というような戦略？になるのではないのでしょうか？

工学部なら、これで合格しますが、医学部なら、さようなら、ですね。

じゃあ、もっと数学を取れるようにしなきゃって考えるべきでしょうか？

それも大切かもしれないですが、あの難度の高い、そして面倒な計算量を試験当日に確実に仕留めることが果たしてできるでしょうか？

大問丸々、方針が見えず、さよーなら

ってことは数学ではよくある話ですよ？

医学部の場合、英語が6割の300点だと、理科は8割の400点として、国語も4割の60点として、数学は340点、つまり7割が必要になります。

不安定な数学に賭けるのは、かなりの確率でなかなか大変やないですか？？

ちなみに最低点は1827点でしたので、合格者平均点から100点低いので、英語6割として、数学は240つまり6割で合格はしていました。

しかーし、英語が8割の400点なら、数学は、なんと、140点、つまり3割で合格となります。

分かりますか？？？

二次の英語を8割に乗せることは、実は、そんなに難しいことではありません。

こっちに力を入れておいて、英語をガチで安定させることを考えるのも、数学がニガテな理系とくに医学部の人には使える考え方になってきますよ！！！！

ニガテなのに、あの面倒な数学を頑張りますか？

それとも、英語をまたいつかお話しする8割を取る勉強をして

→予備校的なやり方とは全く違いますが・・・

本番で楽したいですか？

英語は、絶対に、きちんとやれば、安定した得点、つまりは、確実に8割取れるようになります。

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

しかも、正しい方法なら、時間をかけた分だけ得点になって表れてきます。

さあさあ、どうしますか????

### (8) 国公立英語の二次対策 (その2)

英語の勉強をするとき、基礎学力を点検することは大切ですが、過去問をやったりすることも大切なのは理解されていると思います。

国公立の問題の場合、自分が受験する予定の過去問だけでは量が足りないことは十分にありえます。

また、国公立の英語では、特別難しい問題というより、記述としてどうまとめるか?

というような英文が選ばれており、設問も割りと素直な問題だったりします。

かと言って、簡単というわけでもありませんから、そこそこの対策だけをして臨むと得点帯は6割前後になったりするので。

8割あたりをねらう状況であったり、それなりに高得点を取りたいのであれば、他の国公立の問題を演習に使われると効果がかなり変わってきます。

そして、国公立の問題は概ね解くことによって力がつくようないい問題が選ばれていますので、学力もついでについてきます。

そこで、自分が受ける大学の過去問もやった上で、または、同程度の過去問をやった上で、さらに同程度の他の国公立の問題をやってみることをオススメします。

東大、京大に関しては、あまり他の大学には類似品が見られませんが、その他の大学を受験される方は、負荷をかけることはできます。

記述問題集みたいなものは、全訳やアプローチなどが掲載されているため、一見使いやすそうには見えますが、設問がリライトされており、入試の生の素材ではもはやなかったりします。

総合的な学力をつけるためには、国公立の各大学が練りに練り上げた設問をしっかりと解き込むことが結局早道だったりします。

実際、全訳をきちんとすることが試験場では理想的すぎますので、不完全ながらの和訳力で勝負しなくてはいけないわけだから、その中でいかに満足のいく解答を練るべきか?

ということを実践的に練習しとかないといけないわけです。

国公立の問題は、無駄な問題を配置せず、パラグラフが読めていたのかどうかを下線部訳や説明問題や空所補充問題で試しているわけですので、それらが解けていれば読めた

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

ものと割り切っておくことも大切です。

あ、それから、受験予定のない赤本などを購入して演習できるようなら越したことはないのですが、基本、そういうところにはお金をかけないですよ(笑)

そういう時は、サイトで解答つきで問題を購入してやることになると思いますが、全訳的なものに不安がありまくる人は、コピーなどをさせてもらってでも全訳を購入するようにはしてください。

ちなみに、解説を参考にするのではなく、自力でなぜその解答になるのか考えておくのはかなり有効な学力の付け方なので、必ず粘り強くやってくださいね！

→最初のうちは解説を使いながらも解く視点を確認していくことが大切ですので！

私大の英文と違って、典型的な英文がよく採用されていますので、解き終わったあとも何度かその英文を読み直しておきましょう！！

英語に自信がない人は、単語集、熟語集片手に解答をやっていくのも構いませんからね！調べたものの周りに掲載されているものも含めて暗記しておきましょう！！

どんどん国公立の英文に立ち向かうことは、基礎力をしっかり固めた後ならものすごく学力を引き上げることになっていきますよ！！！！

恐れず、チャレンジしてくださいね！！

### (9) 国公立英語の二次対策 (その3)

このシリーズで、英語の重要性はご理解出来たかと思います。

ちなみに、志望校に対する獲得得点計算はもうお済みですか？

まだなら、今すぐ計算をしてみてください。

特に国公立医学部合格を目指すのであればなおさらです！！！！

漠然とした勉強の先に待っているのは・・・もう、言いません。

目標ある勉強に必要な視点は、どうやって必要な点数をたたき出すか？

という1点に注がれなくてはなりません。

学問的意義を感じて勉強することは、姿勢としては立派です。

でも、そんなものは、いつでも満点取れるようになってさらに合格してからやってくれ！！！！

国公立二次の英語で常に高得点をたたき出すには、どんな練習をすべきか考えていますか??

まさか、英単語や英熟語や英文法をやりこんで英語の長文を読み込んでいたら、いつか、

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

その域に到達するとでも思っていたりしていませんか??

もちろん、年数をかけたら、いつかは到達するかもしれません。

でも、いつでも満点近く取れると思う??

それも、半年後に、その姿勢だけではダメなんです!!!

もちろん、英単語、英熟語、英文法の知識は絶対に必要です。

短文、数行の解釈を正確にすることもとても大切です。

長文問題集をやることも大切なことです。

それらをやっていけば自然と点数が高得点になりますか?

偏差値が80近くで安定すると思いますか?

国語力がずば抜けていて、物事の本質への見極めがしっかりしているなら、そういうことも可能になります。

しかし、みなさんは、現時点で、そのような能力を有していますか???

自分を客観的に分析出来るようなタイプで、論理性がしっかりしていて、なおかつ努力家であり、必要なことをしつこく何度も何度もやりこんでいけるというバランスの取れた状況でないと、この長文はけっこう取れたけど、この長文は読み間違えて、下線部訳はできるけど要約はなあ・・・

国公立の長文はなんとか取れるけど、早慶の長文は、さっぱり正答できんわ・・・

もちろん、必要なことだけ頑張っておけばいいのですが、あなたの受験大学が今年から要約問題を課すかもしれませよ!

学力つけたらそれだけで足りると思いますか???

どういう練習をすればオールラウンダーに高得点をたたき出すことが出来るようになると思いますか?

考える価値がありますね!!!

### (10) 国公立英語の二次対策 (その4)

国公立の二次英語対策に、そして、早稲田や慶應の対策に良質な英語長文問題をお探しのことと思います。

無駄な設問が少なく、良質な長文が多く詰まった問題集として

北大、東北大、一橋大、名古屋大、神戸大、大阪大、九州大の英語 ○○カ年のシリーズをオススメします。

国公立が採用する英文は、論理展開がしっかりしていて、付されている設問は、英文を

## 英語で偏差値 80 を取るための学習方法

しっかり捉えているか？英語をコントロールする最低限の知識があるか？

という観点で作られていますので、100～200 長文をしっかりやりこんでいけば英語そのものの力がつきます。

学力が不安定な状況なら、最初の 30～50 の長文は

①設問がどんな観点(ポイント)で作られているか？をしっかり解説で確認していく

②一文一文を精読し直してみる

③一文一文の繋がりを考えてみる

④パラグラフの要旨を考えてみる

というように丁寧にやるといいでしょう。

その後は、試験モードで解く練習をしていくのも、設問の観点をチェックしていき、上記の流れの省略バージョンでこなすのもいいと思います。

このあたり以降から、ある程度、量に比例しながら、または、ある時期から、ぐっと伸びていきます。

そのうち抵抗などがなくなりましたら、毎日 3～5 くらいの長文を解答していきましょう！！

英語は、基本を身につけていたら伸びは量で決まってきます。

その中で、覚えた単語や熟語が反射になっていたり、意識しなくても、文法をうまく採り入れながら、読めるようにもなりますし、ポイントが詰まったアタマを作っておけば、下線部訳や説明問題などにも反射能力が生かされていきます！！

国公立入試において、英語は要です。しっかりやり込めば、点数を保証してくれる科目です。